

## 社会福祉学専攻 博士課程前期

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 関連領域も含めた、社会福祉に関する幅広い知識が説明できる。
- DP2 取り上げた課題に関わる先行研究や実践例等について十分理解し説明できる。
- DP3 選択した課題について一貫した論理で説明できる。
- DP4 参照すべき文献・資料、実践等についての的確な判断が示されている。
- DP5 社会福祉が課題とすべき諸問題への真摯な取り組みや解決への意欲が認められる。
- DP6 研究者養成においては基礎的な研究方法が会得されている。
- DP7 高度専門家養成においては、高度な実践スキルを会得している。

## 社会福祉学専攻 博士課程前期

### 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー達成のため、以下の講義科目、演習科目並びに特別研究を置き、学位論文を課す。括弧内はそれぞれのカリキュラム・ポリシーが対応するディプロマ・ポリシーを示す。

- CP1 研究者養成と高度専門化養成の2つのトラックに応じた科目を置く。(DP2、DP3、DP4、DP6、DP7)
- CP2 他大学社会福祉学専攻との単位互換システム（社会福祉専攻連絡協議会）を置く。(DP1、DP2)
- CP3 大学学部で他分野を専攻していた学生に対し、学部科目も含めた社会福祉の基礎知識を修得する科目を置く。(DP1、DP2、DP5)
- CP4 研究者養成においては修士論文指導（特別研究）を充実し、研究の基礎的思考を修得させる。(DP2、DP3、DP6)
- CP5 高度専門家養成においては、現場と連携した指導体制を構築し、高い問題解決能力を修得させる。(DP2、DP4、DP7)
- CP6 特定の社会福祉の課題との関連付けやフィールドワークの実施への意欲を高める。(DP2、DP5)
- CP7 文献研究、調査方法、実習等のスキルを向上させる科目を置く。(DP2、DP4、DP6、DP7)

## 社会福祉学専攻 博士課程前期

### 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻博士課程前期では、以下の能力と資質を有する者を受け入れる。

- AP1 必ずしも学部で社会福祉を学んだ人だけでなく、関連領域で学んだ知識を社会福祉領域で活かすことができる能力を持っている人。
- AP2 大学学部レベルで修得する社会福祉の基礎知識を持っている人。
- AP3 大学学部卒業程度の社会福祉学的思考・判断力や実践力を有している人。
- AP4 社会福祉分野への関心が高く、具体的な研究や実践の課題を設定しようとする意欲を有する人。
- AP5 関心領域や課題について一定の専門用語を使つて的確に説明できる人。

上記 AP 1 と AP 2 は筆記試験によって、AP 3 ～AP 5 は口述試験及び提出書類によって評価する。

## 社会福祉学専攻 博士課程後期

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 社会福祉学を体系的に説明できる。
- DP2 取り上げた研究課題について、内外の先行研究を十分理解し自分の研究に位置づけ説明できる。
- DP3 研究課題を達成するための一貫した論理思考が示されている。
- DP4 独自の枠組みや視点が示されている。
- DP5 社会福祉学の課題として重要な論点への挑戦が認められる。
- DP6 研究方法を十分理解しており、それを研究課題の達成のために駆使できている。
- DP7 論文作成の技法や表現を身につけている。

## 社会福祉学専攻 博士課程後期

### 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー達成のため、以下の講義科目、演習科目並びに特別研究を置き、学位論文を課す。括弧内はそれぞれのカリキュラム・ポリシーが対応するディプロマ・ポリシーを示す。

- CP1 関心分野について先行文献の理解を深め、課題設定を行うための科目を置く。(DP2、DP3)
- CP2 設定した課題を社会福祉学の体系の中に位置づけるための思考力を培う科目を置く。(DP1、DP5)
- CP3 研究能力の向上を目的とした博士論文指導を行う。(DP3、DP4、DP5、DP6)
- CP4 課程博士取得のために毎年研究計画を見直し、適宜学会報告、学会誌投稿等を行うよう促す。(DP3、DP4、DP5)
- CP5 研究方法や論文作成の方法を修得し、それを博士論文において利用できるようなカリキュラムを編成する。(DP6、DP7)

## 社会福祉学専攻 博士課程後期

### 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻博士課程後期では、以下の能力と資質を有する者を受け入れる。

- AP1 博士課程前期修了レベルの、高度な研究を行うために必要な社会福祉学に関する知識と理解を有する人。
- AP2 具体的な課題設定や研究計画を書く知識がある人。
- AP3 研究的な思考や問題解決のための判断能力がある人。
- AP4 変化する現代社会における社会福祉の諸課題に挑戦し、新たな理論や実践の方向へむかって挑戦できる人。
- AP5 基礎的な研究方法を学んでいる人。
- AP6 研究計画書を表す能力がある人。

上記 AP 1、AP 2、AP 5 は提出書類によって、AP 3、AP 4、AP 6 は口述試験によって評価する。

## 教育学専攻 博士課程前期

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 人間と社会、及び両者の関わりについて、教育学に関する専門性を持って理解することができる。
- DP2 教育に関する様々な事象について、多角的に検討を加え、学識と専門的視野を持って適切な判断を行うことができる。
- DP3 教育に関する諸問題を専門的な視野に立ち分析するための関心・意欲・態度を身につけている。
- DP4 教育研究の方法論を理解し、活用することができる。

## 教育学専攻 博士課程前期

### 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー達成のため、以下の講義科目、演習科目並びに特別研究を置き、学位論文を課す。括弧内はそれぞれのカリキュラム・ポリシーが対応するディプロマ・ポリシーを示す。

- CP1 家庭、学校、社会における教育事象について理解し、専門的な洞察を深めるために、理論と実践のバランスの取れたカリキュラムを編成する。(DP1、DP2)
- CP2 専門性を有する研究者・実践者を育成するため、専門的科目と、学際的科目を置く。(DP2、DP4)
- CP3 単位互換制度による履修のほか、他専攻、他大学の科目聴講を含めた幅広い科目の履修と、個別指導を中心とした論文指導を通じて、教育研究への関心、意欲、態度を高めていく。(DP1、DP3)
- CP4 教育学の専門的研究を進めるための文献研究的・量的・質的方法論や、学際的な研究ができるようなカリキュラムを編成する。(DP2、DP4)

## 教育学専攻 博士課程前期

### 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻博士課程前期では、以下の能力と資質を有する者を受け入れる。

- AP1 希望する領域の教育研究を理解するための大学学部で修得する基礎的な学力を備えている人。
- AP2 客観的に事象をとらえ、論理的、主体的に思考・判断できる人。
- AP3 高度な専門的知識形成を目指して、教育問題に取り組むとともに、教育に関する研究者や実践家を目指したい人。
- AP4 自分の見解を適切に述べることができる表現力と論理的思考力を持っている人。

上記 AP 1 と AP 2 は筆記試験によって、AP 3 と AP 4 は口述試験及び提出書類によって評価する。

## 教育学専攻 博士課程後期

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 人間と社会、及び両者の関わりについて、教育学に関する高度な専門性と、博士の学位を取得するに足る深い学術的知見を持って理解することができる。
- DP2 教育に関する様々な事象について、多角的に検討を加え、深い学識と高度な専門的視野を持って適切な判断を行うことができる。
- DP3 教育に関する諸問題を高度に専門的な視野に立ち分析するための関心・意欲・態度を身につけている。
- DP4 教育研究の方法論を最新の研究を踏まえて理解し、活用することができる。

## 教育学専攻 博士課程後期

### 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー達成のため、以下の講義科目、演習科目並びに特別研究を置き、学位論文を課す。括弧内はそれぞれのカリキュラム・ポリシーが対応するディプロマ・ポリシーを示す。

- CP1 家庭、学校、社会における教育事象について理解し、高い水準での専門的な洞察を深めるために、理論と実践のバランスの取れたカリキュラムを編成する。(DP1、DP2)
- CP2 高い専門性を有する研究者・実践者を育成するため、専門的科目と、学際的科目を置く。(DP2、DP4)
- CP3 単位互換制度による履修のほか、他専攻、他大学の科目聴講を含めた幅広い科目の履修と、個別指導を中心とした論文指導を通じて、質の高い博士論文を完成させるための関心、意欲、態度を高めていく。(DP1、DP3)
- CP4 教育学の優れた専門的研究を進めるための文献研究的・量的・質的方法論や、学際的・国際的な研究ができるようなカリキュラムを編成する。(DP2、DP4)

## 教育学専攻 博士課程後期

### 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻博士課程後期では、以下の能力と資質を有する者を受け入れる。

- AP1 専攻分野の教育研究を理解するための高度な学力を備えている人。
- AP2 教育に関する体系的な知識に基づいて、論理的、主体的に思考・判断できる人。
- AP3 高度専門職として必要な知識と研究能力の形成を目指して、教育問題に取り組むとともに、教育に関する研究者や実践家を目指したい人。
- AP4 専門的立場から自分の見解を適切に述べることができる表現力と論理的思考力を持っている人。

上記 AP 1 と AP 2 は提出書類によって、AP 3 と AP 4 は口述試験及び提出書類によって評価する。

## 現代社会論専攻 博士課程前期

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 関連領域も含めた現代社会に関わる広範な知識を身につける。
- DP2 身につけた知識の意義や役割について先行研究等について理解できる。
- DP3 自らの考えに基づいた問題解決を行え、問題解決の結果を次に活かすことができる。
- DP4 情報収集や発信等自分の活動がどのような影響を及ぼすか判断できる。
- DP5 社会科学が課題とすべき諸問題への取り組み状況から意欲・態度を育む。
- DP6 常に課題意識を持つ。
- DP7 研究者養成においては基礎的な研究方法を獲得し、情報の収集・選択・処理といった一連の活動を利用することができる。

## 現代社会論専攻 博士課程前期

### 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー達成のため、以下の講義科目、演習科目並びに特別研究を置き、学位論文を課す。括弧内はそれぞれのカリキュラム・ポリシーが対応するディプロマ・ポリシーを示す。

- CP1 多様化する現代社会の社会現象や社会問題に向けて、社会学・歴史学・人類学・経済学等の研究者養成と専門家養成に関する科目を置く。(DP 1、DP2)
- CP2 現代社会の社会現象や社会問題に関する研究の基礎的思考を修得させる。(DP2、DP3)
- CP3 現代社会の社会現象や社会問題について常に課題意識を持たせる科目を置く。(DP5、DP6)
- CP4 現代社会の社会現象や社会問題の本質をしっかりと理解し適切な表現ができるよう指導を行う。(DP3、DP4)
- CP5 正しい学術論文の書き方を修得させる。(DP2、DP7)

## 現代社会論専攻 博士課程前期

### 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻博士課程前期では、以下の能力と資質を有する者を受け入れる。

- AP1 現代社会の社会現象や社会問題に向けて、社会科学の基礎知識を持っている人。
- AP2 英語学術論文を吸収できる語学力を有する人。
- AP3 日本語で社会科学の議論をこなせる十分な日本語能力を有する人。
- AP4 大学学部卒業程度の社会科学的思考・判断力を有する人。
- AP5 社会科学分野への関心が高い人。
- AP6 制作物や発表等の取り組みに意欲を有する人。
- AP7 問題の本質をしっかりと理解し、口頭及び文面で適切な表現ができる人。

上記 AP1 と AP2 は筆記試験によって、AP3～AP7 は口述試験及び提出書類によって評価する。

## 現代社会論専攻 博士課程後期

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 関連領域も含めた現代社会に関わる体系的な知識と、身につけた知識の意義や役割について学術的知見を修得している。
- DP2 社会科学に関する研究課題に取り組める理論的技術・知識を有する。
- DP3 独自の研究計画と視点を持つ。
- DP4 社会科学が課題とすべき諸問題を高度に展開できる。
- DP5 研究方法を身につけ、研究課題を発展させる能力を有する。

## 現代社会論専攻 博士課程後期

### 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー達成のため、以下の講義科目、演習科目並びに特別研究を置き、学位論文を課す。括弧内はそれぞれのカリキュラム・ポリシーが対応するディプロマ・ポリシーを示す。

- CP1 多様化する現代社会の社会現象や社会問題に向けて、社会学・歴史学・人類学・経済学等の先行文献を理解し、課題を追求することができるカリキュラムを編成する。  
(DP1、DP2)
- CP2 現代社会の社会現象や社会問題について課題を設定し、思考・判断する能力を高める。  
(DP3、DP4)
- CP3 博士論文の遂行能力を育てる。(DP4、DP5)
- CP4 博士課程における研究課題を考察し、学会誌に発表するよう促す。(DP4、DP5)
- CP5 博士論文に必要な技能を修得するための指導を行う。(DP2、DP5)

## 現代社会論専攻 博士課程後期

### 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻博士課程後期では、以下の能力と資質を有する者を受け入れる。

- AP1 社会科学の基礎知識を持って、高度な研究を行うことができる人。
- AP2 英語学術論文を利用できる語学力を有する人。
- AP3 日本語で社会科学の議論をこなせる高度な日本語能力を有する人。
- AP4 博士課程前期修了水準の社会科学的思考・判断力を有する人。
- AP5 社会科学分野における諸課題に意欲的に取り組み、更に高度な学術的レベルに意欲を持つ人。
- AP6 後期課程に必要な基礎的研究方法を学んでいる人。
- AP7 独自の研究計画を遂行する能力を有する人。

上記 AP1、AP3～AP7 は口述試験及び提出書類によって、AP2 は筆記試験によって評価する。

## 心理学専攻 博士課程前期

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 人間と社会に関わることがらについて広範な知識を有し、科学的・客観的理論と研究法を修得し、専門家としての実践力がある。
- DP2 社会機構の複雑化、人間関係の多様化に対応した人間の行動法則や心の構造・機能の解明と判断が行える。
- DP3 心理学の基本的な理論と方法を体系的に理解し、その発展に寄与しうる能力を有する。
- DP4 科学的・客観的な理論と研究法に立脚した高度なコミュニケーション能力を有し、実践における専門的技法を修得している。更に臨床領域においては臨床心理士第1種指定大学院に相応しい実践力を有している。

## 心理学専攻 博士課程前期

### 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー達成のため、以下の講義科目、演習科目並びに特別研究を置き、学位論文を課す。括弧内はそれぞれのカリキュラム・ポリシーが対応するディプロマ・ポリシーを示す。

- CP1 心理学の観点から問題を設定し、思考・判断する高度な力を修得するための心理学研究基礎論を置く。更に臨床領域においては臨床家としての実践的思考・判断力を修得するための演習と実習を置く。(DP2、DP4)
- CP2 他領域の大学院学生の問題意識及び研究テーマを知ることができる心理学研究基礎論を置く。(DP1、DP3)
- CP3 研究に必要な技能を修得するための特別研究を置く。更に臨床領域においては必要な実践力を修得するための演習と実習を置く。(DP3、DP4)
- CP4 一人一人の大学院学生に教員全員が関わるとともに、大学院学生間の情報の共有を図るための心理学研究基礎論を置く。(DP1、DP4)

## 心理学専攻 博士課程前期

### 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻博士課程前期では、以下の能力と資質を有する者を受け入れる。

- AP1 心理学に関わる大学学部卒業レベルの知識と理解を有し、心理学に関する英語文献が読める程度の語学力を有する人。
- AP2 大学学部卒業レベルの心理学的思考・判断力を有する人を希望する。更に臨床領域においては臨床家としての思考・判断力を修得しうる能力を有する人。
- AP3 大学学部卒業レベルの基本的な理論と方法を体系的に理解し、人間の様々な分野における問題に関わる力を有する人。
- AP4 大学学部卒業レベルの、問題の設定とその研究のための研究デザインの立案に関わる基礎的技能とコミュニケーション力を有している人。

上記 AP 1 と AP 2 は筆記試験によって、AP 3 と 4 は口述試験及び提出書類によって評価する。

## 心理学専攻 博士課程後期

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 専門分野において博士の学位を取得するに値する深い学術的知見と技術を修得している。
- DP2 社会機構の複雑化、人間関係の多様化に対応した人間の行動法則や心の構造・機能の解明と判断が行える。
- DP3 心理学の専門的な理論と方法を体系的に理解し、その発展に寄与しうる高度な能力を有する。
- DP4 科学的・客観的な理論と研究法に立脚した高度に専門的なコミュニケーション能力を有し、実践における専門的技法を修得している。

## 心理学専攻 博士課程後期

### 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー達成のため、以下の講義科目、演習科目並びに特別研究を置き、学位論文を課す。括弧内はそれぞれのカリキュラム・ポリシーが対応するディプロマ・ポリシーを示す。

- CP1 心理学の観点から問題を設定し、思考・判断する高度な力を修得するための心理学研究基礎論を置き、更に個別の研究指導にあたる。(DP1、DP2)
- CP2 他領域の大学院学生の問題意識及び研究テーマを知ることができる心理学研究基礎論を置き、更に個別の研究指導にあたる。(DP3、DP4)
- CP3 研究に必要な技能を修得するための特別研究を置き、更に個別の研究指導にあたる。(DP1、DP3)
- CP4 一人一人の大学院学生に教員全員が関わるとともに、大学院学生間の情報の共有を図るための心理学研究基礎論を置く。(DP1、DP4)

## 心理学専攻 博士課程後期

### 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻博士課程後期では、以下の能力と資質を有する者を受け入れる。

- AP1 博士課程前期修了レベルの、高度な研究を行うために必要な心理学に関する知識と理解を有する人。
- AP2 博士課程前期修了レベルの心理学的思考・判断力を有する人。
- AP3 博士課程前期修了レベルの専門的な理論と方法を体系的に理解し、人間の様々な分野における問題に心理学の立場から、関わる力を有する人。
- AP4 博士課程前期修了レベルの技能表現を修得し、後期課程における研究において必要とされる高度な技能とコミュニケーション力を有している人。

上記 AP 1 と AP 2 は提出書類によって、AP 3 と AP 4 は口述試験及び提出書類によって評価する。

## 相関文化論専攻 博士課程前期

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 多様な文化領域に対する広汎な知識と、研究テーマに関する高度な専門知識を有している。
- DP2 文化の相関性と相対性に立脚した、論理的な思考に基づく、事象の分析と説明ができる。
- DP3 従来の学問領域に拘泥しない、新視点の研究を試みている。
- DP4 綿密な計画を立て、研究に必要な言語を駆使して調査・研究活動を行い、研究成果を論理的にまとめて発表することができる。

## 相関文化論専攻 博士課程前期

### 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー達成のため、以下の講義科目、演習科目並びに特別研究を置き、学位論文を課す。括弧内はそれぞれのカリキュラム・ポリシーが対応するディプロマ・ポリシーを示す。

- CP1 文化に関する多様な視点を知り、知識の偏りを回避するとともに、専門分野を掘り下げるための講義科目を置く。(DP1、DP2、DP3、DP4)
- CP2 文化の相関性と相対性に立脚した、複眼的な事象の分析と解明を行う能力を養うための演習科目を置く。  
(DP1、DP2、DP3、DP4)
- CP3 常に課題を自主的に見出し、その課題を探究する能力を養うための演習科目を置く。  
(DP1、DP2、DP3、DP4)
- CP4 研究に必要な言語の運用能力の専門的なレベルへの向上を目指すとともに、論理的な表現力を身につけ、研究の集大成としての修士論文を課す。(DP1、DP2、DP3、DP4)

## 相関文化論専攻 博士課程前期

### 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻博士課程前期では、以下の能力と資質を有する者を受け入れる。

- AP1 多様な異文化に関する知識と研究対象とする文化に関する研究情報を有している人。
- AP2 文化を国際的・学際的な視点から多元的にとらえ、自分の研究が社会にどのように貢献できるか考えられる人。
- AP3 諸地域・諸分野の文化の関係性に対する好奇心と研究対象に対する探究心を有している人。
- AP4 十分な語学力を有し、自分の考えを論理的に表現できる人。

上記 AP 1、AP3、AP4 は語学試験（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、日本語（古文）から出願時に選択）と論文からなる筆記試験によって、AP2 は口述試験及び提出書類によって評価する。

## 相関文化論専攻 博士課程後期

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 当該分野における最先端の知識を有している。
- DP2 多様な事象を融合させた、重層的な視点に基づく研究を行っている。
- DP3 オリジナリティのレベルが高い、新分野の学問領域を開拓している。
- DP4 研究対象地域の使用言語による研究発表を行い、論文を作成できる。

## 相関文化論専攻 博士課程後期

### 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシー達成のため、以下の講義科目、演習科目並びに特別研究を置き、学位論文を課す。括弧内はそれぞれのカリキュラム・ポリシーが対応するディプロマ・ポリシーを示す。

- CP1 研究対象とする文化に関する最新の情報を知り、最先端の研究状況を理解する。(DP1、DP2、DP3、DP4)
- CP2 文化の相関性と相対性に立脚した思考から、重層的な研究を展開する能力を養う。  
(DP1、DP2、DP3、DP4)
- CP3 様々な学問領域をリンクさせる思考から、新たな発展領域を創出する能力を養う。  
(DP1、DP2、DP3、DP4)
- CP4 研究対象地域の言語による原典や研究論文を理解する能力の向上を目指す。(DP1、DP2、DP3、DP4)

## 相関文化論専攻 博士課程後期

### 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻博士課程後期では、以下の能力と資質を有する者を受け入れる。

- AP1 多様な文化領域に対する広汎な知識と、研究テーマに関するより高い次元の専門知識を有している人。
- AP2 文化の相関性と相対性に立脚した、論理的な思考に基づく、事象の分析と説明ができる人。
- AP3 従来の学問領域に拘泥しない、新視点の研究を試みている人。
- AP4 綿密な計画を立て、研究に必要な言語を駆使して調査・研究活動を行い、研究成果を論理的にまとめて発表することができる人。

上記 AP1~AP3 は口述試験及び提出書類によって、AP4 は語学試験（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、日本語（古文）から出願時に選択）によって評価する。